

特別展

国立ベルリンエジプト博物館所蔵
古代エジプト展
天地創造の神話



CONTENTS

• 企画展 和宮 江戸へ — ふれた品物 みた世界 —

• 「開化の背景 — モースが見た明治の東京 —」 東京都江戸東京博物館 副館長 小林淳一

特別展

国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展

天地創造の神話

2020年11月21日(土)〜2021年4月4日(日)
1階 特別展示室

本展は、ベルリン国立博物館群のエジプト・コレクションから、「天地創造の神話」をテーマに知られざる古代エジプトの神話の世界について、アニメーションも駆使しながら貴重な出土品とともに解き明かす展覧会です。

世界有数のコレクションを所蔵するベルリン国立博物館群

ベルリン国立博物館群は、ロン・ドン・大英博物館、パリ・ルーヴル美術館などと並ぶ、ヨーロッパ最大級の規模と質の高さを誇る総合博物館です。1830年にシュプレー川に浮かぶ島に「旧博物館」が開館して以降、一帯には新たな博物館が次々と建設されました。現在では、5つの博

物館が並ぶ「博物館島」として知られています。「博物館島」は、第二次世界大戦による建物の破損や作品の散逸、東西ドイツ分裂の時期を経て、1999年にユネスコの世界文化遺産に登録されました。

そのなかでエジプト部門では、世界でもっとも有名な女性像の一つとして知られる「ネフェルティテの胸像」をはじめ、アマルナ時代の優品を筆頭に、数千年にわたるエジプト史を網羅する世界有数のエジプト・コレクションを所蔵しています。

フロローグ

すべては海から始まった

古代エジプトにおいて、この世

界の始まりは、暗闇の中にある混沌とした原初の海の「メン」

でした。古代エジプト人と「水」との結びつきは非常に深く、非常に重要なものと考えられています。天地創造後も、メンは世界の縁辺部に存在し続け、エジプト周囲の大海の水をはじめ、ナイル川や川の増水(氾濫)による水、雨水、地下水など、すべての水の根源と考えられていました。

第1章

天地創造と神々の世界

古代エジプトでは、全知全能の神々の力によって、この世の万物が創造されたと考えられていました。いくつかある創世神話のなかでも、特に大きな影響力を



猫の姿をした癒しの女神
バステト女神座像
前610〜前595年頃

持っていたのが、ヘリオポリスとヘルモポリスの二つの宗教都市の神話でした。また、多神教世界であったことから、神々の種類も多様で、身近な自然環境の中に存在するさまざまなものに神性が宿ると信じられていました。本章では、神々の姿や神々が創った森羅万象について紹介します。

第2章

ファラオと宇宙の秩序

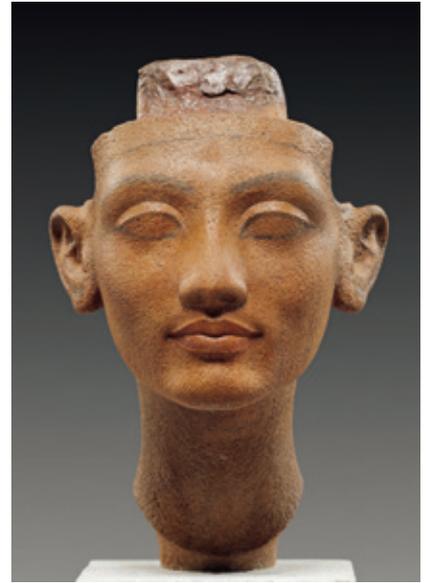
「メン」から、神々の意思により創造された宇宙の秩序・摂理

を「マアト」と言い、個々の人間が遵守すべき最も重要な規範・道徳として考えられています。人間社会のリーダーであるファラオは、社会の中でマアトを遵守し、遂行する最高責任者でした。本章では、神々と人間社会を結ぶ存在であった「ファラオ王」の役割を展覧します。

第3章

死後の審判

墓地の守護神でミイラ作りの神でもあるアヌビス神により、



絶世の美女

ネフェルティティ王妃あるいは王女の頭部
前1351～前1334年頃

死者は「二つのマアト（正義）の広間」に導かれます。ここで死者の審判が行われ、死者の心臓とマアトを象徴する羽根が天秤にかけられ、釣り合えば、生前に不正をおこなっていない証として、オシリス神のもとで再生と復活が保証されました。本章では、「再生復活」を根本とする古代エジプト文明の死生観につ

いて、「死者の書」や棺、黄金に彩られたミイラ・マスクなどの副葬品を通して紹介します。

エピソード

オシリスの予言

「ヌン」から生まれた万物は、世界が終焉するとすべて消し去られ、「ヌン」の状態に戻ります。しかし、そこには創造神アトゥム



装飾に「死者の書」が記される

タイトカブの人型木棺(内棺)
前746～前525年頃

と再生神オシリスが生き残り、二柱の神々の存在により、古代エジプト人はかつての秩序ある世界が再生することを願いました。

2021年は日独交流160周年にあたり、また東京都とベルリン市は1994年より姉妹友好都市関係を結んでいます。本展によって、両国・両都市の友好関係のさらなる発展を願うとともに、この機会にエジプト神話を通して、人類の歴史を見つめなおしてみたいかががでしょうか。

information

特別展

「国立ベルリン・エジプト博物館所蔵 古代エジプト展 天地創造の神話」

開館時間：9:30～17:30 ※入館は閉館の30分前まで

休館日： 毎週月曜日(ただし2021年1月4日、11日、18日は開館)、2020年12月21日(月)～2021年1月1日(金・祝)、1月12日(火)

主催： 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、ベルリン国立博物館群エジプト博物館、朝日新聞社、日本テレビ放送網、東映

後援： ドイツ連邦共和国大使館

協力： ルフトハンザ カーゴ AG

協賛： 野崎印刷紙業

観覧料(税込)	特別展専用券	特別展・常設展共通券
一般	1,800円	2,000円
大学生・専門学校生	1,440円	1,670円
65歳以上	1,440円	1,530円
中学生(都外)・高校生	900円	1,050円
小学生・中学生(都内)	900円	なし

※団体料金でのチケット販売はありません。

※次の場合は観覧料が無料。未就学児童。身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)。

※小学生と都内在住・在学の中学生は、常設展示室観覧料が無料のため、共通券はありません。

※開館時間の変更やシルバーパーティーの実施については、江戸東京博物館ホームページをご確認ください。

〈チケット販売所〉江戸東京博物館、イープラス、日テレゼロチケ、あさチケなど(特別展・常設展共通券の販売は、江戸東京博物館のみ。)



神性と多様性を象徴する3匹の魚

三匹の魚とロータスを描いた浅鉢

前1450～前1400年頃

作品はすべて© Staatliche Museen zu Berlin, Ägyptisches Museum und Papyrussammlung / S. Steiß / M. Büsing

企画展

和宮 江戸へ——ふれた品物 みた世界——

2021年1月2日(土)～2月23日(火・祝)

常設展示室内 5F企画展示室 *会期中に展示替えがあります。

江戸時代、将軍および將軍世子の正室は、三代將軍徳川家光の正室孝子以降、宮家・撰家などから迎えるのが習わしでした。そのなか

でもとりわけ著名な婚礼は、皇女との婚姻です。仁孝天皇の皇女で孝明天皇の皇妹和宮は、十四代將軍徳川家茂の正室として降嫁して

います。このように、將軍の正室の多くは公家社会の出身で、彼女たちを介して京都の宮廷文化が江戸城の奥に浸透しました。

品を中心に組み立ててみました。その展示品から、和宮が江戸城において何を見て、どのようなものに触れ、いかなる暮らしをしていたのかを感じていただきたいと思えます。

和宮は、1846年(弘化3)閏5月10日、仁孝天皇と典侍の橋本経子との間に生まれました。外祖父で公卿の橋本実久のもとで養育され、四歳の時に孝明天皇の命により有栖川宮熾仁親王と婚約しました。この頃は都で生涯をおくると思っていたことでしょうか。ところが、1858年(安政5)6月に日米修好通商条約が調印されると、尊王攘夷運動が過熱し、尊攘派を弾圧した大老井伊直弼は、桜田門外で暗殺され、幕府の権威は失墜しました。そのような背景のなかで、公武合体論が浮上し、和宮

の徳川家茂への降嫁が決まったのでした。江戸への下向は1861年(文久元)10月でした。京都から江戸への行列には多くの人が参加し、通過する地や江戸では多くの人々が出迎えたようです。幕府から派遣され、随行した武士たちも、その様相を絵巻物に描き残したり、ゆかりの品を伝えたりしており、この時の彼らの栄誉が偲ばれます。

しかし、和宮と家茂の結婚生活は、翌1862年(文久2)2月の挙式から、1866年(慶応2)7



金糸八重桜雉子文様 懐紙挟・煙草入・煙管入
公益財団法人徳川記念財団蔵
展示期間:2月2日(火)～2月23日(火・祝)

葵葉菊紋鶴亀 手鏡
公益財団法人徳川記念財団蔵



月に家茂が二歳で早世するまでのわずか4年あまりでした。加えて家茂の三度にわたる上洛は、共に過ごす時間をさらに短くしてしまいました。

その頃の和宮の様子をうかがわせる品として、身の回りに置かれた調度品が残されています。降嫁の折に京都で用意された道具のほか、幕府側でも数多くの婚礼道具を誂えました。これらの道具を通して、和宮は、大奥において御所風と武家風のそれぞれの生活様式を和合せたのでした。いわば名実ともに朝廷と幕府の懸け橋の役目を担ったのです。さらに、和宮の交流がうかがえる手紙も当時の様相を伝えています。

家茂没後も和宮は江戸城にとどまり、薙髪して静寛院宮と名乗りました。1868年(慶応4)正月から始まった戊辰戦争では、十三代家定御台所の天璋院とともに徳川家存続のために奔走し、江戸無血開城に尽力しました。明治になり一度は京都に帰るものの、夫の墳墓の地を終の住まいにすることを決心し、再び東京に戻りました。その後は、歌道や雅楽など文芸の道に勤しみ、皇室、徳川家一門

と親交を密にして平穏な生活を送り、晩年は持病の治療のために箱根塔ノ沢温泉で過ごしたのでした。



和宮江戸下向絵巻(部分)
1862年(文久2) 資料番号 10200002
展示期間:1月2日(土)~1月31日(日)

竹内誠名誉館長の逝去について

2020年(令和2)9月6日、江戸東京博物館の竹内誠名誉館長が呼吸不全のため他界しました。享年八十六歳でした。

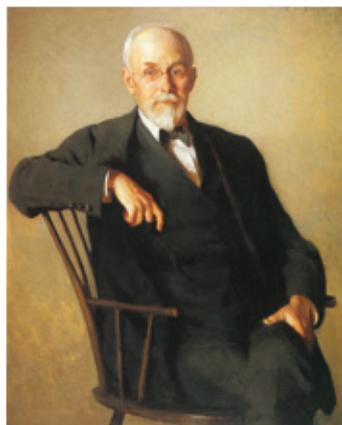
1933年(昭和8)東京生まれ。専門は、日本近世史、江戸文化史。江戸東京博物館とのかわりは、1983年(昭和58)に「東京都江戸東京博物館建設委員会」が設置された際、展示部会の委員への就任から始まります。

その後、「開設準備委員会」「企画展示委員会」などの委員、江戸東京博物館専門参与を歴任し、1998年(平成10)から2016年(平成28)まで館長を務めました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



開化の背景——モースが見た明治の東京——

東京都江戸東京博物館副館長 小林淳一



晩年のモース。フランク・ベンソンによる油彩画
PEM Collection

大森貝塚の発見者として名高いエドワード・シルベスター・モースが、アメリカから初来日したのは1877年（明治10）。明治維新からまだ10年、不平士族の反乱「西南戦争」のさなかのことであった。新政府はその鎮定の一方で、欧米に追い付け追いつけ、と後進資本主義国である日本の近代国家への建設を急務とした。

それは政治や経済のみならず、西洋文化の受容を惹起（じきき）するべく、首都となった東京を舞台に「文明開化」という華やかなムーブメントを演出した。モースをお雇い外国人として東京大学の初代動物学教授に招いたのも、西洋の進んだ科学技術や学問

を貪欲に吸収しようとするこの表れであった。

この年、上野公園において内務省の主導で「第一回内国勸業博覧会」が開催されている。全国の物産を一堂に会し、広く国民に知らしめることを主眼とし、新政府が掲げた「殖産興業」を具現化することを目的とした。出品点数8万4千点、出品人員1万6千人。観覧者数は実に45万人



第1回内国勸業博覧会「農業館」建物。
モース自筆スケッチ
PEM Collection



「農業館」内部の様子で「繭から絹を紡ぐ娘たち」。モース自筆スケッチ
PEM Collection

にもものぼった新興日本の意気を示す国家をあげての大イベントであった。

モースは幾度となくここを訪れている。彼の日記には、みずから「農業館」をスケッチし、その中で着物姿の娘たちが繭（まゆ）から絹を器用に紡ぐ様子がくわしく記されている。また、展示された磁器、漆器などの伝統的な技術や材料でつくられた工芸品の繊細さと美しさに深く感銘を受けるとも、とくに初めて目にする盆栽が珍しかったとみえ、「松の木は奇怪極まる形につくられる」とユーモアたっぷりに眺めている。

さらに「日本人のこれ等及び他の織（せん）美（び）な作品は、彼等が自然に大いなる愛情を持つことと、彼等が裝飾芸術に於て、かかる簡単な主題（motif）を具体化する力を示しているので、これ等を見た後では、日本人が世界中で最も深く自然を愛し、そして最大な芸術家であるかのように思われる」と述べ、日本人がいかに自然と密接にくらしているかを強調している。

しかし、「機械館」では測量用具、時計、電信機、望遠鏡、顕微鏡、器械装置、電気機械、空気ポンプなどの「近代的」な出品物を目のあたりにし、「維新から、僅かな年数しか経ていないので、博覧会を見て歩いた私は、日本人がつい先頃まで輸入していた品物を、製造しつつある進歩に驚いた」とも記した。

モースが東京で過ごした時期とは、江戸の残像ははまだ色濃く残るものの、日本が近代化へと向かう幕開け、ちやうどその移り変わりのころにあたる。彼は「江戸の面影は消滅してしまふであろうと予言した。そのため、当時の人びとの諸相を克明に観察のうえ滞在記『日本その日その日』を著した。いま、この本をひもとくと、わが国が歩んできたおよそ150年の長い歴史において、幕末明治という激動の時代をまさに乗り越える、いわば「近代への序曲」がかなでられているかのように感じるのである。

「人間大砲来る」ポスター

1923年(大正12)に起こった関東大震災により、興行の町として知られた浅草公園六区は大きな被害を受けました。震災後、当地の映画館や劇場は応急的に建てたバラックで営業を再開し、時代が昭和へと移る中でモダンなコンクリート造りの本建築へと建て替えられていきます。

本資料はそうした復興の進む浅草で開催された「人間大砲」の興行を知らせるポスターです。建ち並ぶ新たなビル群を背景に、大砲から豪快に人間が打ち出される様子が描かれています。

この時の人間大砲は、およそ10mの砲身から圧縮空気を用いた突出機により人間を空中へと射出する仕組みで、天気の良い時には30mほどの高さまで打ち上がったそうです。「砲弾」となって華麗に空



「人間大砲来る」ポスター

1931年(昭和6) 資料番号 10200262

を舞うのはドイツ人カール・ライネルト。宙返りをしながら前方に張られた網へと到着する優れた技量が、この興行を成り立たせています。彼の人間大砲興行は前年に神戸市で開催された観艦式記念海港博覧会にて初上演され、

期間中、延べ137万人が来場する大人気となりました。浅草での興行も、この年総理大臣に就任することとなる犬養毅をはじめとした名士らの観覧を得て、毎日盛況であったと当時の新聞は伝えていきます。(学芸員 杏沢博行)

艦式記念海港博覧会にて初上演され、

図書室から お知らせ

図書室の仕事 Vol. 3

図書室の展示

— 本との新しい出会いを

当館の特徴のひとつに、図書資料についての考え方があります。現在収蔵している約26万点の本は全て「博物館の収蔵品の一部」に位置付けられ、大切に保管されています。

約26万点に及ぶ蔵書の中で、常設展示や閲覧室でみなさんの目に触れる本は、ごく一部にすぎません。書庫には戦火を免れた貴重な本や、本屋さんでは手に入れることができない本もたくさん収蔵されています。普段利用されることが少ないそれらの本を、より多くの方に見て、知っていただきたいという思いから、7階図書室内に展示コーナーを設け、独自の展示を行っています。テーマ設定から選書、展示作業に至るまで緊張感もありますが、司書にとつて本と向き合うことができる楽しい時間でもあります。

これらの本は展示終了後、誰でも手に取ってご覧いただくことができます。展示ケースの中にあつた収蔵品を直接さわる機会はないかもしれませんが、博物館をより身近に感じることができるとも、当室の特色のひとつです。

2021年1月からは、NHK大河ドラマの主人公「渋沢栄一」をテーマに本を展示します。博物館にお越しの際は、ぜひ7階図書室の展示もご覧ください。

※書庫の本の利用には閲覧請求が必要です。展示中・修復中などの事情により、ご利用いただけない場合もございます。図書室へお問い合わせください。



網島家での
豆まきの様子

網島家での年中行事

江戸東京たてもの園西ゾーンにある「網島家」は、現在の世田谷区岡本で1700年代前半ごろより代々農業を営んだ家の建物です。屋根の軒が低く窓などの開口部が少ない閉鎖的な造りで、古い民家の特徴を残しています。

移築復元する際、お住まいの方々へヒアリングをしたところ、四季折々にさまざまな行事を行っていたことがわかりました。そこで、室内での生活情景の再現に加え、展示の一環として年中行事のいくつかを実施していくこととなりました。現在、梅干しづくりや盆棚の展示、十五夜・十三夜飾り、大根干し、小正月の繭玉飾り、節分の豆まきなどを行っています。

今年には新型コロナウイルス感染症の影響で制約の多い日々を過ごしていますが、生活の節目で行われてきた年中行事は、これからも大切にしていきたいものです。
(学芸員 阿部由紀洋)

※たてもの園における各種行事・イベントについての最新情報は、たてもの園HPでご確認ください。

「えどはくチャンネル」動画公開中！



えどはくチャンネルはこちら↓



“新しい生活様式”という言葉が頻りに耳にするようになった昨今、あらゆる場面でインターネットなどを活用する機会が増えてきました。当館でも様々な方法で楽しんでいただけるようオンラインコンテンツの制作に取り組んでいます。その一つが当館のYouTubeチャンネル「えどはくチャンネル」です。

こちらでは、展示紹介や資料解説の動画を制作し、公開してきました。当館の学芸員が鑑賞のポイントや、より詳しい資料解説を動画にてお伝えしていますので、展示の鑑賞前、鑑賞後にご覧いただくと、より深くお楽しみいただけます。また、遠方にお住まいでなかなか訪れることができない方にも、当館の魅力を知っていただく機会になれば幸いです。

展示紹介や資料解説だけでなく、様々な動画コンテンツをお届けできるよう日々制作に取り組んでいます。今後も続々と公開していきますので、ぜひ「えどはくチャンネル」へアクセスしてみてください。



江戸東京博物館 NEWS vol.111

お問い合わせ 03-3626-9974 (代表)

ホームページ <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp>

来館のご案内 JR総武線「両国駅」西口から徒歩3分
都営地下鉄大江戸線「両国駅(江戸東京博物館前)」A3・A4出口から徒歩1分
都バス錦27・両28・門33系統 墨田区内循環バス南部ルート「都営両国駅前」(江戸東京博物館前)下車、徒歩3分

発行日 2020年12月18日(金)
編集・発行 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館
〒130-0015 東京都墨田区横綱1-4-1
制作・印刷 株式会社D_CODE



表紙解説

パレメチュシグのミイラ・マスク

後50～後100年頃

©Staatliche Museen zu Berlin, Ägyptisches Museum und Papyrussammlung Berlin / M. Büsing

ローマ支配時代のミイラ・マスク。美しく装飾されたかつらを着けたパレメチュシグという男性のもの。アムビス神(黒い犬)やウジャト眼などが、色鮮やかに描かれています。下部中央にはクロキが描かれており、死者を表したものとされています。

